ISAP 2015 パラレルセッション
**“SATOYAMAと持続可能な開発：**
**現場への資金支援と知識形成をつなぐ”**
2015年7月29日

# 自然共生社会の形成による持続可能な開発目標への貢献

武内和彦
（国連大学上級副学長）

UNITED NATIONS UNIVERSITY

SATOYAMA INITIATIVE

# SATOYAMAイニシアティブによる自然共生社会の実現

- 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)で採択された愛知目標の長期目標は「**自然と共生する世界の実現**」
- SATOYAMAイニシアティブは「**生物多様性の持続的利用**」(条約第2の目的)の目的を具体化
- SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ(IPSI)がCOP10で創設
- **社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ**(SEPLS)を現代に適した形で保全、再生していく
  - 人と自然の調和的な相互作用により形成された土地利用や生息・生育地の動的モザイク
  - 生物多様性を維持し、人々の福利に必要なモノやサービスを提供
  - 多くの地域で、さまざまな原因により、SEPLSの破壊や劣化が進んでいる

SATOYAMAイニシアティブ国際パートナシップ第5回定例会合
(IPSI-5) 2014年10月 於・韓国、平昌

Agroforestry
(Brazil nut and cacao forest)

Paddy dominated landscape in Bali

Abandoned paddy fields in Japanese *satoyama* (© S. Okubo)

Homegarden in Kerala (© BM Kumar)

# 持続可能な開発目標（SDGs）

- 「ミレニアム開発目標(MDGs) 」は、2015年までに開発分野において達成すべき国際社会共通の目標
- ポスト2015年開発目標として途上国向けのMDGs（8目標）から、**世界共通の地球規模課題（universality)**を取り上げる「持続可能な開発目標(SDGs)」（17目標と169ターゲート）へ展開
- 2015年9月に採択される予定のSDGsは、**貧困と飢餓の終焉、健康と教育の改善、都市の持続可能性向上、気候変動対策、海洋と森林の保護**など、幅広く持続可能な開発課題をカバー
- SDGsを達成するための6つの主な要素として**人(people)、地球(planet)、尊厳(dignity)、繁栄(prosperity)、正義(justice)、パートナーシップ(partnership)**を提唱
- 従来よりも**人が中心（people-centred)**で**地球にやさしい（planet-sensitive) 全体的(holistic)**アプローチと、活動の実施とその効果のモニタリングについての**測定可能性（measurability)**を重視
- 持続可能な発展は、**環境、経済、社会**の3つの側面に支えられ、環境保護（environmental protection）、経済成長（economic growth）、社会的公平（social equity）といった**目標の達成バランス**によって成立

SDGs達成するための6つの主な要素

持続可能な開発

# SATOYAMAイニシアティブとSDGs

## 多くの目標が様々な形でSATOYAMAイニシアティブと関係

- SATOYAMAイニシアティブの**目的にも合致する、生態系や自然資源の持続的な利用・管理**に関する多くの目標　（→SATOYAMAイニシアティブの取組を進めることで目標達成に**直接貢献**）
  - 目標 2　飢餓回避、食糧安全保障、栄養改善、**持続可能な農業**
  - 目標 6　**水と衛生**の確保と持続可能な管理
  - 目標 12　**持続可能な生産と消費**
  - 目標 14　**海洋資源**の保全と持続可能な利用
  - 目標 15　**陸域生態系**の保護・回復。**森林**管理、**砂漠化**対処、**生物多様性**保全

- SATOYAMAイニシアティブの**取組に関わりのある多くの目標**　（→こうした点を考慮しながら取組を進めることで**相乗効果**が期待）
  - 目標 1　**貧困削減**　（SEPLSでの取組を進めることで貢献）
  - 目標 3　**健康的な生活と福祉**の促進　（SEPLSでの取組を進めることで貢献、ターゲット3.9に汚染等による健康リスク）
  - 目標 4　**教育と生涯学習**　（SEPLSの取組を効果的に進めるために必要）
  - 目標 5　**ジェンダー平等**　（SEPLSの取組を効果的に進めるために必要）
  - 目標 7　持続可能な現代的**エネルギー**　（SEPLSの自然資源の活用も検討。7.2に再生エネ）
  - 目標 8　持続可能な**経済成長、雇用**　（SEPLSでの取組を進めることで貢献が期待、8.9でツーリズムに言及）
  - 目標11　安全、レジリエントで持続可能な**都市および人間居住**　（災害影響削減、緑へのアクセスなど）
  - 目標13　**気候変動**への措置　（SEPLSの脅威に成り得るし、取組を進めることで貢献も期待）
  - 目標16　平和で**包摂的な社会**の促進　（ SEPLSの取組を効果的に進めるために必要。Participatory decision making など）

- 持続可能な開発のため、**SATOYAMAイニシアティブ国際ネットワーク（IPSI）のさらなる貢献が求められている**（目標 17　持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップ）

# 人がつなぐ森里川海の連環

## 森・里・川・海のつながりがもたらす生態系サービス

- 安全・安心・清く豊かな水
- 清浄な空気・土壌の保全
- 安全で美味しい食糧
- バイオマス
- 地域の自然に根ざした文化
- 災害防止
- レクリエーション
- 多くの生物の生存基盤等

# 森川海を繋ぐフィールドミュージアム

**国立公園とその周辺部の里山・里海、集落地を含めた一定のまとまりをもつ地域**を
フィールドミュージアムとして位置づけ、**エコツーリズム**の推進や**環境教育**などを、面的、
複合的に推進することで、**地域の活性化**に繋げる。

## ★拠点施設の役割

- 自然体験プログラム受付
- 森川海の繋がりの解説
- 自然環境の調査研究　等

## 森川海の連環を学ぶ(例)

- 養殖体験を通じた、豊かな海を支える森・川についての自然学習
- サケの遡上・産卵観察により海川森の連続的な生態系について学習
- 山の管理活動と、山の木材を用いたイカダづくり体験
- カヌーによる北上川下りで、森川海の繋がりを体験　等

**※みちのく潮風トレイルとの連携や外国人もターゲットにし、地域の活性化へ繋げる**

## 『森里川海のつながり』を感じられるエリアに

# 森里川海の連環を通じた地域活性化：南三陸町での取組

○町境と分水嶺がほぼ一致。
○山（森）では「南三陸杉」を生産
○山から流れる河川は里を経由して志津川湾へ
○湾内は古くからノリ、カキ、ワカメ、ホヤ等の養殖の漁場

「南三陸町の漁業地」

環境に配慮した養殖漁業の国際認証であるASC認証（Aquaculture Stewardship Council、水産養殖管理協議会）の取得を目指す。

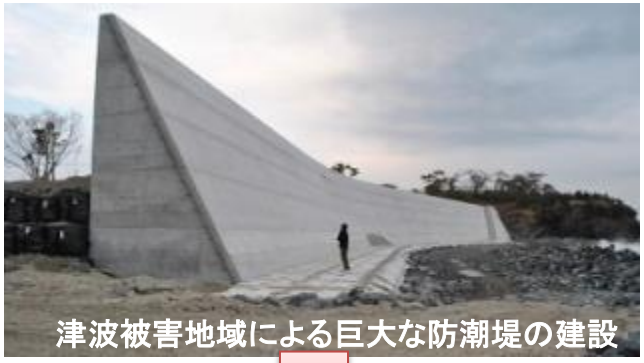
「南三陸町の林業地」

森林管理の国際認証であるFSC認証（Forest Stewardship Council、森林管理協議会）の取得を目指す。

南三陸杉のブランド向上に向けた「南三陸を山から動かすプロジェクト」を実施中

# 生態系を活かした防災・減災

- 2014年11月、シドニーで国際自然保護連合（IUCN）主催の第6回世界国立公園会議が開催
- 日本はIUCNとの共催で「国立公園をはじめとする保護区域が防災減災に果たす役割」に関する討議をリード
- 森林や湿地などの生態系が防災・減災に果たす役割についての共通認識
- 東日本大震災後からの復興においても、こうした生態系機能を活かしていくことが地域再生につながる
- 2015年3月14日～18日に仙台で開催された国連防災世界会議でも「生態系を活用した防災・減災」に関する国際イベントを開催


津波被害地域による巨大な防潮堤の建設

津波に脆弱な地域での湿地再生

世界国立公園会議（2014年11月）

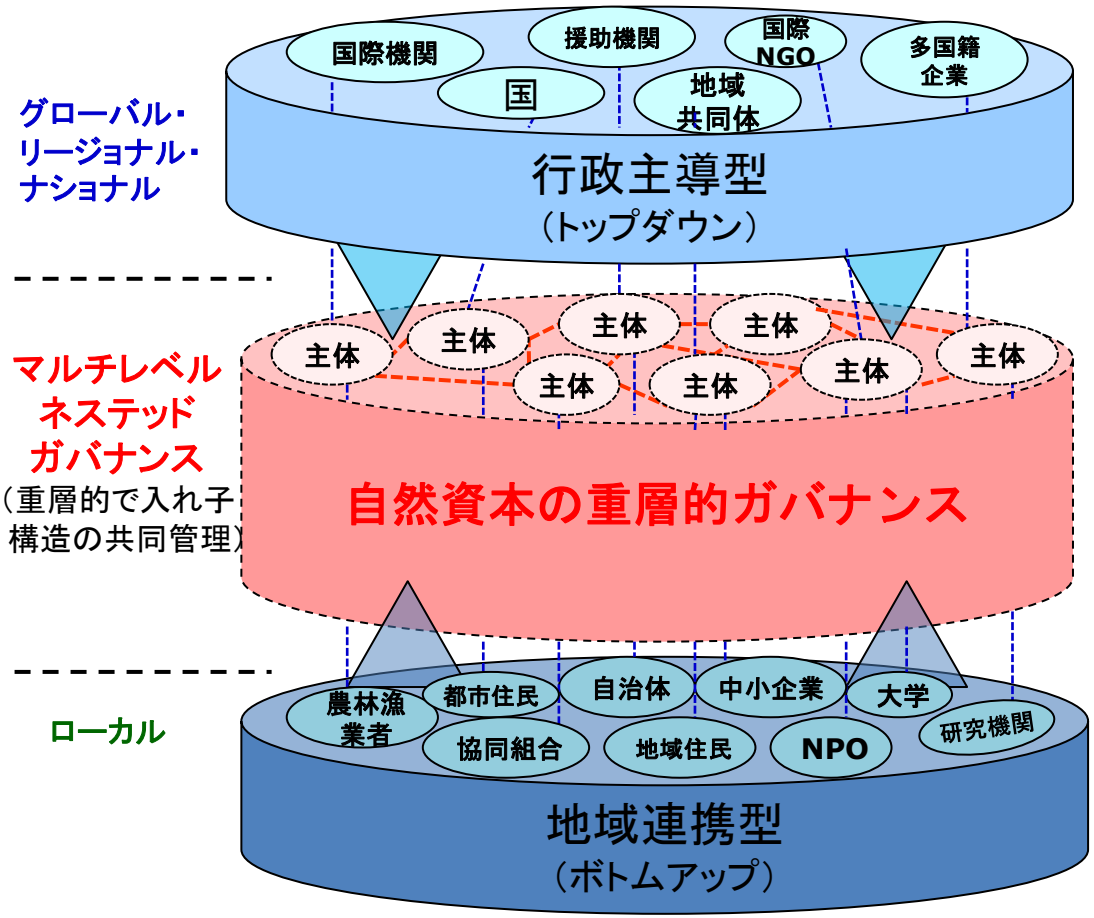
森林の再生(Photo by Mr. Takao Ogawara)

# 自然資本の重層的ガバナンス

SATOYAMAイニシアティブでは、ストックとしての自然資本の劣化を防ぎ、フローとしての生態系サービスを持続的に享受して行くための共同管理の仕組みづくりが必要。

伝統的なコモンズに変わる多様なステークホルダーが水平的な関係で連携した新しいガバナンス（協治）の仕組み（新たなコモンズ）の構築が求められる。

グローバルなネットワークとつながりながら、ローカルなボトムアップ型の活動を重視する重層的で入れ子状構造のガバナンスを構築していくことが有効と考えられる。




**多様な主体による重層的な連携に基づく自然資本の共同管理の構造**

# グローバルパートナーシップの活性化：SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ

- 社会生態生産ランドスケープの保全や再生の取組に関する経験や知識の共有、メンバー間の相乗効果を醸成するためのプラットフォーム
- 設立時のメンバー51団体から167団体に増加（政府、地方自治体、NGO、先住民団体、企業、学術研究期間、国際機関、国連機関）
- 多彩な活動を促進（知見の集約・発信、研究、現地活動、能力開発等）
- 活動を様々な形で支援するための仕組み
  - 知見の共有の促進（ケーススタディ、定期的な地域ワークショップや国際会合等）
  - 資源動員（COMDEKS、Satoyama Development Mechanism (SDM)など）

IPSI Website

COP12/ IPSI-5

IPSI-2

Florence Regional Workshop

IPSI-4

SATOYAMA INITIATIVE